4　不正咬合を伴う低位乳臼歯の一症例

○高橋成久*，瀬尾令士，秋山陽子，本川　渉

瀬尾歯科医院*・熊本県
福歯大・小児歯

混合歯列期において、乳臼歯の低位を伴った晩期残留により、乳臼歯のAnkylosis や、後継歯の萌出遅延、更には永久歯の歯列不正を招来し、その結果、機能的且つ審美的障害をもたらす例も多く認められる。今回、咀嚼機能障害を主訴として来院し、$\overline{\text{ED|E}}$が低位で、2|2の交叉咬合及び$\overline{\text{21|12}}$部の叢生を伴う13歳11ヶ月の男児の1症例について報告する。

患　者　：江○島○也　　生年月日：昭和51年9月14日
初診日　：平成2年2月18日　　主　訴　：咀嚼障害

口腔内所見：

・Helmanのdental ageはⅢB 期であり、
$\frac{6\ \ \ 4\ 3\ 2\ 1}{6\ \ \ \ 3\ 2\ 1}\Big|\frac{1\ 2\ 3\ 4\ \ \ 6}{1\ 2\ 3\ \ \ \ 6}$が萌出し、ED|Eは低位で、いわゆる晩期晩期残留状態を示している。

・$\frac{2\ \ \ \ \ \ 2}{2\ 1\ \ \ 1\ 2}$ 部に叢生が認められ、特に2|2は交叉咬合を示している。6|6は近心傾斜が認められる。

X線所見：

・5|は埋伏状態にあり|5は|Eの吸収不全により萌出が阻害され、5|5の発育遅延と主軸回転異常が認められる。$\overline{\text{ED|E}}$の歯根膜腔は狭小で、不明瞭であり歯槽硬線は肥大し、歯根の吸収が遅延している。$\overline{\text{5|5}}$は完全に、埋伏状態にあり、特に$\overline{|5}$は遠心方向への傾斜が著明である。